

緩和ケアを学ぼう会 特別編 2017

研修会 in 山形鶴岡・三川

日時 2017年10月31日(火)18:30 開始

会場 鶴岡市立荘内病院 3階講堂

プログラム

総合司会 和泉典子(鶴岡市立荘内病院 内科・緩和ケアチーム)

開会あいさつ 鈴木 聡

(緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長/鶴岡市立荘内病院 外科)

第1部 基調講演

「ご家族のためのがん患者さんとご家族をつなぐ在宅療養ガイド
～作成の経緯と今後の展望」

渡邊清高(帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授)

「それぞれの生き方～ホームホスピスにできること」

今野まゆみ(ホームホスピス にじいろのいえ)

「在宅緩和ケアの現場から」

河原正典(爽秋会岡部医院)

休憩

第2部 語らいタイム

「鶴岡・三川地域の在宅緩和ケアについて考える」

モデレーター 渡邊清高・河原正典

テーマ①:がんの在宅療養に関わって良くなったと思うことは?

テーマ②:よりよい地域にしていくためにわたしたちにできることは?

まとめ・閉会あいさつ 中村秀幸(中村内科胃腸科医院 院長・鶴岡地区医師会)

登壇者プロフィール



渡邊清高（わたなべ きよたか）

帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科准教授（腫瘍内科・がん情報）
1996年東京大学医学部卒。医学博士（消化器・肝臓内科）。
内科、救命救急研修を経て、東京大学医学部消化器内科、国立がん研究センターがん対策情報センターを経て2014年より現職。地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報普及と活用プロジェクトリーダー。患者・家族、一般市民、医療従事者、研究者向けなど、がんに関する信頼できる情報発信と、現場のニーズに応じた普及の取り組みを実践しています。

✉ OPTIMの戦略研究のころから地域目線の普及の取り組みを注目していました。このたびの荘内病院での研修会楽しみにしています。秋の語り合いのひととき、「鶴岡・三川モデル」のエッセンスをできる限り吸収させていただきますと思います。



今野まゆみ（こんの まゆみ）

一般社団法人 月虹(げっこう) 代表理事
ケアプラン・ヘルパーステーション虹色 管理者 ケアマネジャー
ホームホスピスにじいろのいえ 代表
1985年 東北福祉大学社会福祉学科卒業。重度身体障害者施設の介護職員を経て、2004年より医療法人社団爽秋会でケアマネジャーとして勤務。2014年に退職後、同年4月ホームホスピスにじいろのいえを開所。現在は、がん患者さんとともに過ごさせていただきながら、地域で支えるとは、どうしたことなのか、医療と介護が本当のチームになるためには、どのような取り組みをしたら良いのかを改めて模索しながら、日々取り組んでおります。

✉ 私は、日々、いろいろ学びながら皆さんと関わっています。この仕事をしていても悩みますが、楽しいことも沢山あります。辛いことは一人で抱えず、一緒に話し合える場所があるといいですね。そんな一歩になれると思います。



河原正典（かわはら まさのり）

爽秋会岡部医院医師
名古屋出身。専門は在宅緩和ケア。
1999年福島県立医科大学医学部卒。外科医として、仙台医療センター、仙台厚生病院などに勤務。2008年4月より爽秋会岡部医院に勤務し、故岡部健とともに、仙台圏の在宅緩和ケアに取り組み、現在は、全国の在宅緩和ケア・緩和医療の普及に取り組んでいます。

✉ 緩和医療や在宅医療は、地域によってさまざまだと感じています。ただ、どこの地域でも必要とされているとも思います。明日からすぐに役立つ研修会ではないかもしれませんが、少し皆で考える時間になればと思います。よろしくお願いします。

～ アンケートにご協力ください ～

研修会が終了しましたら、【アンケート用紙】にご記入いただき、出口の回収箱にご投函いただくか、係の者にお渡しください。

今後のこうした取り組みを全国に広げるための参考とさせていただきますので、ぜひともご協力のほど、よろしくお願いいたします。




地域におけるがん患者の療養支援情報 普及と活用プロジェクト


<http://homecare.umin.jp/>

がん患者さんが、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすときに役立つ情報をまとめました。これまでのがん医療フォーラムでいただいた声、在宅での療養をよりよくしたい患者さん、ご家族の意見や提案をまとめる形でつくられています。地域でのフォーラム、アンケートなどを通して、顔の見える関係づくりを進めていくことが、がん患者さんを支える社会づくりの第一歩だと考えています。ぜひ、ウェブサイトをご覧ください。

がんの在宅療養



「在宅療養ガイド」制作と プロジェクト創設にいたるまで



渡邊 清高 さん
(帝京大学医学部内科学講座 准教授/腫瘍内科・がん情報)

公益財団法人 正力厚生会

<http://shourikikouseikai.or.jp/>

正力厚生会は、読売新聞東京本社からの寄付金などをもとに「がん患者さんとそのご家族を支援する」事業活動を行っています。主な助成実績は次の通りです。

〔がん患者団体への助成〕

がん患者団体による講演会開催や情報発信のためのサイト構築などの事業に対し、上限50万円を贈ります。2007年度からこれまでに、延べ240団体に助成してまいりました。詳細は正力厚生会の公式サイトをご覧ください（2018年度助成申請は締め切りました）。

〔医療機関への助成〕

当フォーラムにかかわるプロジェクト（2012年度から）のほか、▽国立がん研究センター相談員養成講座（2006年度からの5か年）▽がん研究会有明病院データベース作成（同）▽医療機関による「がん」がテーマの小冊子作成（2010年度までに計10冊）▽東京大学医学部附属病院との共催シンポジウム▽静岡県立静岡がんセンター「Web版がんよろず相談Q&A」構築—があります。

〔読響ハートフルコンサート〕

QOL（生活の質）向上の一環として、2007年度から読売日本交響楽団のメンバーが全国のがん診療連携拠点病院などを訪問。弦楽四重奏を中心に患者さんやご家族の皆さん、医療従事者の皆様に質の高い音楽を楽しんでいただいています。これまで69医療機関で開催しました。2017年度末で、72医療機関になる見込みです。